

# ヤギとウミトサカ



△  
色鮮やかなヤギ類  
(水槽番号225)

これらのヤギ類の体表全体には、けば立った小さな塊が無数付いている。それら一つ一つはイソギンチャクを小さくしたような個虫で、お互いがすべて連結して共同生活を営んでいる。つまり、どの個虫が餌を捕らえて

この類も花虫綱八放サンゴ亜綱に属するのだが、

ウミトサカ類はヤギ類と異なって群体の中心部に硬くてしなやかな骨格はまったくなって、ナイフなどでスパスパ切り取れる海の花である。柔らかい肉に鑲められた白色の小さな斑点は骨片で、柔らかい体を少しでも硬くする役割を担っている。

流れが来ても折れないようにしている。流れに任せて揺らめきながら、水流に乗って来る餌を効率よく捕らえる。

このような硬いヤギ類に対して、水槽の右上にはカリフラワーに似た白地に紅色の斑点を鑲(ちりば)めたような柔らかいウミトサカ類がある。

両群は、どの個虫の体を輪切りにしても、触手数と同数の8つの縦の仕切りが体内に見られる。このようなハードとソフトな海の花の8にちなんだ特徴から「八放」という名前が付けられた。

(京都大学准教授)

# 水族館へ行こう!

## 京都大学白浜水族館

ぶくぶくと泡を噴出させ、塩化ビニールパイプからどどんと海水を流し込んで水流をつくり、酸素が十分に溶け込むようにしている水槽がある。

この水槽の底には紫色や赤紫色の艶やかな色に木に似たヤギ類がいる。

# ハードとソフトな海の花

以前紹介したイソバナの親せきで、刺胞動物門花虫綱八放サンゴ亜綱に所属する仲間だ。いずれも暖かくて浅い海の流れの強い場所に生息している。

食べてもすべての個虫に栄養が分け与えられる。個虫の表面には小さな骨片がたくさんあって体を保護するとともに、群体の中心部に大変しなやかな骨格をつくって、強い

ウミトサカ類の紅色に色づいた部分は個虫である。それら何百、何千の個虫の触手の数を調べてみても一定数の8本で、しかも顕微鏡で拡大してみるとどれもみな羽状の触手となっている。